困難に打ち勝つ年に

寄居町長
花輪　利一郎

明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より町政の運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、年明け早々から新型コロナウイルス感染症により世界中で甚大な影響が生じ、この異例の事態は今なお続いております。新型コロナウイルス感染症により、影響を受けられました皆様には謹んでお見舞い申し上げますとともに、最前線で感染症対策に命がけで取り組まれている医療関係者の皆様に深い敬意を表し、感謝を申し上げます。

町では、新型コロナウイルス感染症の町民の皆様への影響を最小限に抑えるため、様々な施策を実施し、地域経済対策や生活支援に全力で取り組んでまいりました。新たな年においても、町民の皆様の生命と安全を第一に考え、経済の再生と町民生活への影響をできる限り抑えるようしっかりとした対策を講じてまいります。

このように困難な状況ではありますが、町を明るくする話題も多くあります。まず、中心市街地活性化事業が本格的に動き出しました。本年は、昨年着手いたしました寄居駅南口駅前広場整備工事に加え、中央通り線の整備工事も始まり、大きく事業が動き出すこととなります。また、本田技研工業株式会社の国内生産拠点の進化として、狭山工場の生産機能を寄居工場へ集約する動きも本格化いたします。これから目に見えて町が変わりゆくことに期待が大きく膨らむ一方で、今後のまちづくりに対する強い使命感も感じております。これらの変化を町にとっての強い追い風としてしっかりと捉え、今後のさらなる発展につなげていけるよう全力で取り組んでまいります。

また、本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。大会開催が約1年延期となり、開催方法等について議論がなされているところですが、大会が安全に開催され、さらには町出身で女子柔道の新井千鶴選手が、世界の舞台で活躍されることを心より願っております。また、ブータン王国との交流事業につきましては、町の活性化につなげてまいりたいと考えております。

町政におきましては、「第6次寄居町総合振興計画前期基本計画」が最終年度を迎えることから、次の5年間のまちづくりの指針となる「後期基本計画」の策定を進めております。前期基本計画に基づき実施した事業の成果をしっかりと検証・分析するとともに、この激動する新たな時代に対応した実効性のある計画を策定したいと考えております。このように本年は寄居町にとって大変重要な年となります。私自らが先頭に立ち、汗をかき、誠意と覚悟をもって、町民の皆様の目線に立った施策を積極的に展開し、未来に希望が持てる町を目指してまいります。町民の皆様の一層のご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

結びに当たり、本年が、新型コロナウイルス感染症に打ち勝ち、町民の皆様にとりまして、健康で笑顔に満ちた素晴らしい年となりますことを心より祈念申し上げますとともに、町にとりましても、さらなる発展に向けた飛躍の年となりますことを念願し、新年のあいさつとさせていただきます。

為せば成る

寄居町議会議長
峯岸　克明

明けましておめでとうございます。

町民の皆様には、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より町議会活動に対して温かいご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年はコロナ禍の一年ではありましたが、寄居町においては寄居桜沢地区（仮称）産業団地の進捗、みなみ寄居駅の開業、寄居駅南口駅前広場の整備着手、雀宮公園を中心とした荒川沿岸の遊歩道の整備など、町の将来の発展につながる環境整備に着実な進展がありました。また、令和2年度中には寄居スマートインターチェンジ上り線の供用開始も見込まれています。

日本一の町民と共に3連覇

議会においても、皆様に報告すべき大きな成果があります。寄居町の「議会だより」が町村議会広報全国コンクールにおいて、史上初の3年連続日本一に輝きました。全国926町村の議会だよりの中で、平成29年度から3連覇。これは過去、全国のどの町村も達成していない快挙です。チーム議会として、16名の議員全員が一生懸命取り組んだことはもちろんですが、3連覇の原動力は寄居町民の皆様です。

寄居町の議会だよりが評価された最大のポイントは、議会だよりへの町民登場の数と質です。平成27年より数え始めて延べ600名、必ず顔写真と名前とコメントの3点セットで登場いただいています。毎号平均25名の方々に登場いただく町民参画型の議会だよりは全国でも例がなく、その意識の高さ、地方自治の根幹である議会に対する町民の姿勢が高く評価された結果です。

議会の重要な機能である広報広聴活動は、町民の皆様の協力なくして機能しません。これからも積極的な展開を図ってまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

コロナ禍での対応力

昨年は新型コロナウイルス感染拡大により、小中学校の臨時休業、1カ月半にわたる緊急事態宣言、人々の移動の自粛に伴う経済の悪化、医療の逼迫（ひっぱく）など未曽有の事態に見舞われた一年でした。

感染拡大は、大筋で「大人数や長時間におよぶ飲食×マスクなしでの会話×換気の不全」が重なったところで起きています。マスク着用と手洗い、消毒を徹底し3密を避けること。医療の逼迫を起こさないよう油断せずに取り組むことが大切です。特効薬の開発やワクチンの接種にはもう少し時間がかかるようです。その間、町民生活を守っていくためには、正しい知識の下、コロナウイルスを制御していくことが重要です。中止や自粛ばかりでなく、どうしたら安全に再開できるかを考えるべきだと思います。

熱く、しなやかに

これからの寄居町の最大の課題は、社会の担い手が大幅かつ急激に減少することです。これまでと変わらぬ取り組みでは町は立ち行かなくなります。前例踏襲ではなく、変化に柔軟に対応するしなやかさが求められます。

ふるさとの可能性を信じて、皆様と共に明るく前向きに。

『情熱がすべての扉を
押し開ける』